

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090500024		
法人名	医療法人社団田口会		
事業所名	グループホーム コアラII		
所在地	群馬県太田市飯塚町63-1		
自己評価作成日	令和2年2月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和2年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

充実した設備(プラズマクラスターイオン・ジェットパーフェクター・スプリングロー・発電機3台・イルミネーション・防犯カメラ4台・非常食など)が整っている。定期的な次亜塩素酸消毒によりウイルス感染防止に努めている。四季を感じられるよう花や野菜を中庭に植えている。初詣や季節の花を見に外出したり、彼岸、七夕、冬至など行事にふれて季節の物を召し上がって頂いている。敬老会やクリスマス会にご家族様や地域の方を招いている。毎月地域で活動しているボランティアの方とのふれあいの場を設けている。車椅子での通院や外出時などに移動手段の確保が困難な場合、職員が送迎を行っている。消防立ち合いの避難訓練に加え、毎月1回自主避難訓練を行い、火災以外の災害も想定し訓練を行うことであらゆる緊急時にも備えている。ブログを開設し、日々の活動やイベントを発信している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族からの要望や意見を、運営推進会議や半年ごとに実施している『満足度調査』や面会時に確認している。設備・医療面・介護面など具体的な意見が様々出されており、事業所は現実と照らしあわせ支援に活かしている。災害対策では、家族や地域代表者も参加する運営推進会議の際に総合訓練を実施し、共に問題意識が持てるようにしている。さらに自主訓練も毎月実施し、写真や記録を残している。備蓄品も一覧表にし、各職員がいつでも確認できるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	信頼・安全・友愛の理念を掲げ、いつでも職員の目につくよう事務所に掲示してある。理念をもとに年間目標、月間目標を作成し業務に励んでいる。	新入職員には理念を説明し、利用者に寄り添う支援に努めることを伝えている。理念をもとに職員が意見を出しあい年間目標・月間目標を作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行政センターに登録している地域のボランティアの方に声を掛けさせて頂き、慰問に来て頂いて事業所のことを知っていただけるよう努めている。	慰問やボランティアの受け入れを行っている。オカリナ演奏や、踊り・手品など様々な来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの場で事例の報告を行っている。認知症相談窓口を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の様子を報告し、日々の写真を回覧して頂いている。質疑応答の場を設けており、忌憚なくご意見を出して頂けるよう心掛けている。要望がでた際は、速やかに対応している。	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。行政担当者・地域代表者の他、毎回複数の家族が参加し様々な情報・意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を作成し、市役所に届けに行っている。市が主催している研修に参加させていただき情報を得られるよう努めている。	管理者は行政窓口に出向き、報告や相談を行っている。介護保険の更新申請は家族が行っている。家族の依頼で認定調査の立ち合いを代行している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の為、夜間帯はご家族様の同意を得た上で玄関の施錠を行っている。身体拘束廃止委員会の会議を3ヶ月ごとに開催し、身体拘束の現状について確認する時間と資料を用いて知識を高める時間を設けている。	玄関は昼間は開錠している。3ヶ月に一度、身体拘束廃止委員会も実施している。現在、ペット柵・つなぎ等、身体拘束にあたる行為はない。スピーチロックは、職員同志で気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の状態の把握に努め、身体や心の変化にすぐ気付けるよう努めている。日々の業務の中で不適切なケアがないよう職員同士で話し合いや意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、制度について学ぶ機会を設けた。現在制度を利用されている方はいないが、活用できるよう支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点がないよう確認しながら、詳しく説明をしている。利用者様やご家族様の質問に対し、親身に応え理解、納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に一回、満足度調査を行っている。集計結果はご家族様にも伝えている。要望などがあつた際は速やかに対応している。	匿名で行う満足度調査で出された意見は、家族の意図を明確にして支援するよう取り組んでいる。面会時に、新聞・食事の献立を渡している。利用者の思いは表情や反応をみながら声かけ等の働きかけをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議を開き、担当の係の報告や意見を出し合う機会を設けている。代表者も会議に参加しており、職員の意見や提案があつた際、速やかに対応している。	毎月職員会議を行っている。接遇面や設備面での意見も自由に出し合い、法人に上申し、対応してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が現場に来る機会も多く、職員一人一人に声を掛け働きやすい環境作りに努めている。また、勤務状況の把握をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修に積極的に参加するよう勧めている。職員のスキルアップの為、毎月介護に関する本を購入している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム大会や研修への参加を通じて他事業所の職員との交流を深めサービスの向上を目指している。施設見学をいつでも受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学を勧め、ご家族様の不安や要望をアセスメントし、入居後も不安なく利用できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から入居までご家族様と何度も連絡を取らせて頂き、ご家族様の潜在的ニーズや要望の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院や居宅の介護支援専門員などから情報収集し、代表者、管理者、介護支援専門員、職員で相談し、当該事業所がご本人、ご家族様等が必要としているサービスに該当しているかを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の仕事の中で畑仕事を特に利用者様に教えて頂いている。収穫時期なども教えて頂いた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が外出、外泊希望される際に出来る限り対応している。ケアプランの中にも外出支援等について盛り込んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居して以降もご家族様以外の方々でもいつでも面会に来て頂けるようご家族様等に入居時に声掛けしている。	家族や親戚・友人等の面会がある。共用スペースや居室で自由に過ごしながら、テレビで時代劇を楽しんでいる利用者もいる。家族から好みの飲み物や副菜などを預かった場合は、その都度提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションの間に職員が関わる事でコミュニケーションがとりやすくなるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス修了時心配事等あれば相談受けられることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントの際ご本人の希望、生活歴、ご家族様の希望を聞き出し、出来る限り希望に添えるよう心掛けている。	入居前にできるだけ自宅訪問を行い、生活の様子を確認させてもらっている。そのうえでアセスメントを行い支援に生かしている。入居後も利用者と夜など落ち着いた時間を利用して思いを受けとめるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は入居前ご家族様やご本人、関係機関から情報を集め、ホームで取り入れられるところは取り入れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや記録で日課等1日の過ごし方を把握し、変化がないか把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングを行い、会議の際、職員間で意見交換をしている。3か月に1回アセスメント、プランの更新をし、6ヶ月に1度サービス担当者会議を行い、ご家族様のご要望、ご意見を介護計画に反映している。	毎月モニタリングを行ない、日頃の記録を参考に計画にそった支援がされているか確認し、3ヶ月ごとに計画を見直している。	利用者・家族から具体的に希望があげられている場合には、具体的に計画に盛り込んでみてはいかがか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を確認し、職員間で情報を共有できるよう申し送りノート、受診ノートを活用し、月に1度の会議の際一人一人のケアの内容を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の気持ちやご本人の気持ちに対応できるよう柔軟に取り組んでいる。受診等移動手段の確保が難しい時は送迎の支援を行っている。買い物支援も対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に一度は地域で活動されている様々なボランティアの方に来所して頂いている、鑑賞されるだけでなく、出来る限り参加出来る物やボランティアの方々と触れ合える物を取り入れるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もなるべくかかりつけの病院を受診して頂いている。ご家族様が受診対応する際には利用者様の状態を記載した職員作成の申し送り書を渡し、かかりつけ医に伝達、相談している。	ほぼ全員の利用者がかかりつけ医を継続して受診している。事業所で同行し、家族にも受診に立ちあってもらうこともある。受診にあたり、生活上の情報は担当者が文書で作成している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態の変化や体調の変化があった場合には速やかに受診若しくは医師、看護師の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し、利用者様の情報提供している。入院中毎日面会に訪れ、退院時に向けて利用者様の状況を把握できるよう介護記録に記入している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ご家族様に事業所が最大限対応できるケアを説明している。終末期にはご本人、ご家族様の希望を踏まえて勉強会を開き、支援に備えている。	入居時に事業所の現状と方針を説明している。出来る限りホームで、との意見もあり、現状は厳しいものの、思いは受けとめており、今後の課題ととらえている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に一度職員会議にて勉強する機会を設けている。研修に全職員が参加出来るよう配慮し、研修があった際には報告書を作成し、全職員が内容を共有できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月必ず様々な災害を想定し、自主避難訓練を行っている。また、年2回消防立ち合いの避難訓練も行い、利用者様とご家族様、区長、民生委員、地域代表、市担当者などに参加頂いている。	昼夜想定総合訓練の他、毎月自主訓練も実施し、写真・記録(反省)を残している。ハザードマップは確認している。備蓄品を数量や日付も含め一覧表にしており、職員は常に確認できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や入浴時等の対応や声のトーンには特に配慮している。言葉遣いや態度に注意し、人権尊重に努めている。	子供扱いにならないように、それぞれの利用者者に合わせた声のトーンなどで、声かけは特に気を付けている。同性介護ができない時には確認をしている。各利用者が自然体で過ごしてもらえることを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時、15時のティータイムに提供する物は何種類かあるメニューの中から利用者様に選んで頂き、飲みたい物を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活するスペースを大切に、職員の都合でその方らしさが損なわれない様な個別の対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時利用者様に好みの洋服を選んで頂いている。季節や気温に合った衣類が着用できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が負担にならず出来る事大根おろしなど一緒に行って頂き、食べる事を楽しんで頂けるように支援している。	栄養士がたてた献立をもとに、毎日食材を届けてもらい手作りで提供している。お茶の時間はメニューを用意している。嫌いな物は替えている。家族からの預かりものも提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列の栄養士が考えたバランスのいいメニューを毎食提供している。飲水量、摂取量は毎回記録している。食事形態も個別に対応させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯ブラシにて口腔ケアをして頂いている。義歯のある方は磨いた後毎日洗浄剤に浸し、消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握するように努めている。パットの種類や当て方など個々に合わせた対応を検討している。トイレの案内、声掛け等で失敗の回数を減らすようにしている。	チェック表をつけている。時間や様子を見ながらトイレでの排泄支援をしている。自立の場合、申告してもらったり確認させてもらっている。夜間のみオムツ使用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	DVD体操等で身体を動かして頂き、便秘の予防に努めている。1日1回は乳製品(牛乳やカルピス等)を飲水して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週3回は入浴して頂けるよう考えており、ご本人の希望を聞き、ご本人の都合のいいタイミングで入浴して頂いている。入浴を嫌がる方には声掛けの方法を工夫したりして対応している。	入浴は、リフト浴が月・水・金曜日、個浴は毎日入浴できる。連日入浴する人・テレビを見終わってから入浴したい人・一番風呂が好きな人など、利用者の生活に合わせて声かけをし支援するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活状況を把握してその時々体調や希望に応じて自由に休息して頂いている。一人一人の生活リズムを作ることで安眠できるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬箱を用意しており、効能や副作用、用法が分かりやすいように個別のファイルも作成している。服薬時ご本人が薬を完全に飲み込むまで確認しており、飲み忘れ等が無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や得意な事を把握して洗濯物たたみや野菜の収穫等役割の持てる場を作れるようにしている。誕生日には職員の手作りケーキで誕生会を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じてお花見等の外出をして頂くように努めている。又、天気の良い日には駐車場内等を散歩している。	日常的に散歩に出かけたり、畑や駐車場で過ごす時間をとっている。花見など外出もしている。正月に外泊する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内に自動販売機や売店などはない為、ご本人の希望とご家族様の同意があれば買い物に出掛ける事も出来る。預り金の中から必需品を買い足す事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様のご意向の元ご本人の申し出があれば職員付き添いにて使用の支援をしている。手紙、はがきなど希望があればご要望に応えるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に合わせたテレビ番組の視聴を考えている。どの角度からも見やすいようにテレビを2台設置している。花や緑を壁面等で季節感を出している。日光もよく入り明るい空間になっている。トイレ、廊下等清潔を重視している。	館内から外の景色を見渡せ、明るい環境である。衛生面での設備も整っている。共用空間にはテレビを2台設置し、どこにいても画面が見られるようにしている。季節の掲示物もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の希望に沿って気の合う方、一人で過ごされたい方等個々の思いを尊重し、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものや飾っていたものなど利用者様が安心できるものと快適に生活して頂けるよう環境作りに努めている。	長期の入居者が多く、居心地のよい居室になっている人が多い。家具や寝具・家族写真が持参されている。好みの番組を居室のテレビで見ている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態の把握に努め、個々に合わせた支援を心がけている。安全で安心な生活、残存機能を生かした支援に努めている。		